

県立博物館 (秋田市)

展示・收藏品より

# 美を知る

281

## 企画コーナー展 「石井露月～子規に見出された医師俳人～」

# 人間味あふれる素顔



企画コーナー展「石井露月～子規に見出された医師俳人～」の展示風景



石井露月

俳人石井露月(1873～1928年)の出身地である秋田市雄和女米木地区では、生誕150年の昨年、菩提寺の高尾山玉龍寺に新たな句碑が建つなど、さまざまな記念事業が行われた。

露月は本名を祐治といい、農家の次男として生まれた。「近代俳句の父」と称された正岡子規の高弟で、秋田をはじめとする地方俳壇の活性化に尽力した人物である。その傍ら、地元で医院を開業。医師として故郷を支え、地域の発展にも貢献した。

露月のことについて調査する時、欠かせない資料の一つが日記である。現在読むことのできる露月の日記は、子規の元を離れ、医術開業試験に挑戦するというターニングポイントになった1896(明治29)年から1928(昭和3)年の亡くなる直前までに書かれたものだ。96(平成8)年に『石井露月日記』(露月日記刊行会刊、写真1)とし

写真1 「石井露月日記」(露月日記刊行会)



て刊行されたが、露月が日記を書いた期間はこれが全てではない。

露月は1887(明治20)年ごろから日記を書いていたと言われている。没後、日記を含む関係資料は、全集を刊行する目的で露月門下の加藤純江の下に集められた。1931(昭和6)年に『露月句集』、35(同10)年に『露月文集 蝸を聴きつ』を刊行し、いよいよ日記をという矢先、純江宅が火災で全焼してしまつたのである。この時、露月の日記も一部焼失した。翌36年、辛うじて残った日記を新聞記者の赤川菊村が筆写し、活字化したのが『石井露月日記』である。

菊村が筆写した後、日記の原本は長い間所在が分からなかった。ところが2000年、

の記録が記されている。露月の交友関係と活動の幅広さが見て取れる。

日記には、仕事以外のことももちろん触れられている。中でも多いのが、飲酒にまつわるエピソード。「昨日酒を過したる故身体倦怠」(明治38年6月6日)など矢敗談も多い。また「午後一人山二遊ビヤケビラ取ルコト数十小籠ト面袂トヲ満タシ帰ル」(大正6年10月7日)など季節の移ろいを楽しむ様子もつづられている。

自分のことだけではなく、家族に関するエピソードも多い。「元次ヤウく恢復」(大正4年5月30日)など、体調を気遣う様子もつかえる(元次は露月の次男)。

現在、当館では企画コーナー展「石井露月～子規に見出された医師俳人～」を開催しており、露月の家族にまつわる資料など約40点を展示している。展示資料の一つが1926(大正15)年、露月夫妻の結婚25年(銀婚)を記念して作った扇(写真3)だ。銀婚を祝う俳句会が行われた際、参加者に配ったとされる。残念ながらこの時期の日記は失われているが、家族を深く愛していた露月にとって、どんなにかうれしい日だったことであろう。偉人も人の子であったと身近に感じられるかもしれない。露月の素顔を垣間見ることのできる、貴重な資料である。

(県立博物館学芸主事・千田育栄)



写真2

「石井露月日記原本電子化集」(露月会刊)



写真3

結婚25年の際に記念に作った扇(全長27.5寸、個人蔵)。「吾棲(す)みて蒼(ふ)りぬる軒(か)や菖蒲(しょうぶ)ふく」とある

### 又也 秋田の先覚記念室企画コーナー

展「石井露月～子規に見出された医師俳人～」は11月24日まで。観覧無料。開館時間は、午前9時半～午後4時半(11月から4時まで)。月曜休館(祝日の場合)

### 合は翌平日。

10月27日は午後1時半から、露月会会長であきた文学資料館顧問の京極雅幸さんが講演する。定員80人。無料。県立博物館 ☎018・873・4121